

# 環境と人間 I

環境政策・自然の叡智

日時：平成21年8月8日（土） 10:00～12:00

講師：稲垣 隆司（愛知県副知事）

## 概況



### 1 我が国の環境問題の系譜

我が国の環境問題は、昭和20年代までの衛生問題に始まり、産業公害、都市生活型公害、平成年代の地球環境問題の経過をたどっている。現在の環境問題の特徴は、個々の媒体が一つの影響を及ぼすのではなく、複数媒体が、いろいろな環境質にまたがり影響を及ぼしている。

#### (1) 愛知県における主な環境の課題

自動車排ガスに起因する大気汚染対策、水循環の変化による水環境の悪化、廃棄物の排出量増大と不適正処理、身近な自然の減少(生物多様性の危機、生態系の破壊)、地球温暖化の進行など地球環境問題、ヒートアイランドの広がりなどである。

#### (2) 個々の社会的要因等

本県は自動車保有台数が全国一で、自動車依存率が高い。物流の変化(少量多品種輸送)、20世紀の基調である大量生産、大量消費、大量廃棄型社会があげられる。

野生動植物の絶滅の原因としては、乱開発等、里山の管理不足、外来生物、地球温暖化の影響があげられる。

## 2 持続可能な社会づくりに向けた取組の主な視点

持続可能な社会づくりには、エネルギー消費の抑制対策、健全な水循環再生対策、ゼロエミッション・コミュニティの創出、生物多様性を基軸とした地域づくりの視点が大切である。本県では、エコカーの普及、住宅用太陽光発電の導入、食品廃棄物の多目的利用などに取り組んでいる。

### (1)生物多様性を基軸とした地域づくり

生物多様性とは、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性が保たれていることである。来年10月にCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が愛知・名古屋で開催される。地域としての役割は、会議支援、愛知・名古屋の魅力発信、地域からの行動・発信、連携・交流が重要である。

COP10で想定される主な議題は「生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる」という2010年目標の達成状況の検証、2010年以降の新たな目標の決定及び遺伝資源を活用した食品、医療品等の利益配分である。

### (2)自然環境に配慮した開発事業の実施の考え方(試案)

開発にあたっては、生態系への影響の回避を第一に検討する。その取組として、保存、保全、復元、代償、創造があげられる。開発に伴い失なわれる生態系と同等のレベルの生態系を創出・回復させることが大切である。

### (3)国際芸術祭あいちトリエンナーレ2010

3年に1回開催される国際会議で、平成22年8月21日から10月31日まで本県で開催される。